

明照園養護老人ホームを訪ねて

編 集 部

熊本県牛深市、それは青い南の海に囲まれた天草下島の

南端に位置する漁港であり、ここにすばらしい近代的な老人ホームが在ると聞かされていて、一度は訪ねてみたいと念願していた。天草と言えばまづ思い出すのは、少年時代に学んだ頼山陽の詩である。

雲か山か呉か越か 水天彷彿青一髪

万里船を泊す天草の洋 煙は蓬窓に横たわって 日漸く没す 瞥見す大魚の波間に跳るを 大白船に当って明月に似たり。

長年月愛唱して、夢想していた土地である。その程度の知識しかなかった私が地図や観光案内書を頼りに、大袈裟に言えば遙々と京の都から筑紫の果ての南の島に赴かうと

言うのである。

“天草への旅 それは、異国への幻想から始まる――まこと、明るく降り注ぐ南の陽光と島影の草むらに埋もれたさまざまなキリシタンの哀史とが、綾に交錯するこの島の旅は、ゴブラン織りのように、ときに華やかにときには重厚な深みの手ざわりで旅するあなたの心に迫ってきてやまない。”

と誘いかけてくれる。そうだった此地は寛永の昔、天草四郎以下のキリシタン一揆軍が幕府軍と戦って、山河を血潮で染めた歴史を物語り、今もなお、天草西海岸には大江天主堂や崎津天主堂が残っていて、十字の尖塔も美しく、さざ波の上を鐘の音が鳴り渡ると、信者達は仕事の手を休

めて十字架を仰ぐ、と言う。

しかし、私のこの度の旅は、牛深市久玉町に在る明照養護老人ホームを訪れるのが目的であり、一路急がねばならない。三月十日東京都の寓居を出ながら、航空機の出発時刻を間違えて、為に午後一時四〇分出発の熊本行で大阪空港を発ち、熊本空港着後空港バスで熊本市の中央部にある交通センターに着き、さらに天草行のバスに乗換えて、三角町、大矢野町を経て、天草五橋を夕暮の雨の中で渡り、松島を過ぎ天草上島を通過して、漸く天草瀬戸大橋を渡り、天草で最も大きい都市と言われる本渡市に着いた頃は日もとっぷり暮れ、雨もますます激しいので、バスセンターに近いホテル・サンロードに投宿せざるを得なかった。

翌朝、晴れて碧い空の下を、本渡市を出発して、目的の牛深市に向った。天草下島を縦断したわけである。牛深港は静かな入り江になっていて、漁港ではあるが真珠の養殖も盛んのようにあり、そのいかがが浮いているのが散見された。

目指す老人ホームは、港からは少し山手に当る丘陵の上

にあるというのでタクシীর世話になった。

ホームの玄関に立つと、早速、待ち受けていて下さった指導員の女性に案内されて、事務室の応接セットに、少し疲れた身体を休めさせて頂いた。

やがて、理事長の令息であり事務長である三宅亮一氏のご挨拶を受け、指導員の戸村千歳さんとお二人から、園の状況について諸般のご説明を承ることができた。その間に理事長であられる三宅春光僧正が来園せられて、園の沿革等について親しく話して下された。

僧正の尊名は浄土宗宗議会議長として、また社会事業家として高名であり、かねてから私かに尊敬申し上げていたが、今回自分としては初対面のつもりで、ご挨拶をしたところ、奇遇と言うか、僧正は私を憶えて下さっていて、承ってみると佛専時代の一期先輩で当時は松中性であられて弁論部の理事でおられ、私も弁論部に属していたのであり、よくよくお顔を熟視させて頂くうち往年の面影が思い出されて、私もなつかしい念いで感激一入深いものがあった。

僧正はご用があり先に自坊の無量寺へ帰られたが、後刻の再会を約された。

次いで、三宅事務長・戸村指導員両氏のご案内とご説明を受けながら、園内を見学し、写真も撮らせて頂いた。昨日に変わる今日の燦々たる陽光の下、まさに春光の温さを感じつつであった。

さて本論に入らねばならない。

まづ、園の環境から紹介を始めよう。

天草全体が未だ緑の山野と碧い海に恵まれおり、気候は温暖で、佳き自然環境の中に在る。牛深市は静かな入り海を控える漁港を抱え、山手の農家ではミカンやメロンを栽培している。半漁半農の街である。あまり風水害なども無く、人口約二万五千、全島人口十七万の天草では本渡市に次ぐ第二の都市である。園の所在する久玉町は昔は大庄屋などが居た土地で古城趾が残っているが、現在ではベッドタウン化して人口が集中し、埋立地が造成されている。この地域に幼稚園、保育園、小・中・高等学校も設置されてい

て、文化的にも開けているが、今尚人情豊かな土地である。

沿革

この園は、昭和三十四年六月、法然上人七百五十年忌を記念して、三宅春光師が発願し、檀信徒の協力を得て、また広く托鉢行を続けて有縁の寄附を仰ぎ、更らには中期ローン等の貸出をも得て、当初は師の自坊無量寺に接して開設され、天草では二番目、私立としては最初の老人ホームであった。次第に拡張の必要が起り、昭和五十三年に現在の地に移転改築されたもので、土地は檀徒の戸村卯造氏が寄附されたのであるが、工費等が約一億六千二百万円を要したと言う。

規模

敷地は四、六六六㎡、建坪は一、四〇二㎡。

建物は管理棟、収容棟三であり、収容棟の第一棟「共生寮」は二入室（六畳）が八室、第二棟「月影寮」は一入室（四、五畳）が十八室、第三棟「清和寮」も一入室

が十八室である。各棟の命名は三宅理事長がなされたものと聞いた。「明照」の園名とともに浄土宗の精神が顕わされている。

管理棟には当然、事務室、宿直室、寮母室、面接室、集会室、医務室、食堂、調理室、調理員室、リネン室、浴室、洗濯室、トイレ、ボイラー室、倉庫等が完備されている他に静養室、霊安室が設けられていて至れり盡せりと言ふべきである。

園舎は凡て通風採光宜ろしく、冷暖の工夫も充分盡されており、近くソーラシステムを採用される予定である。

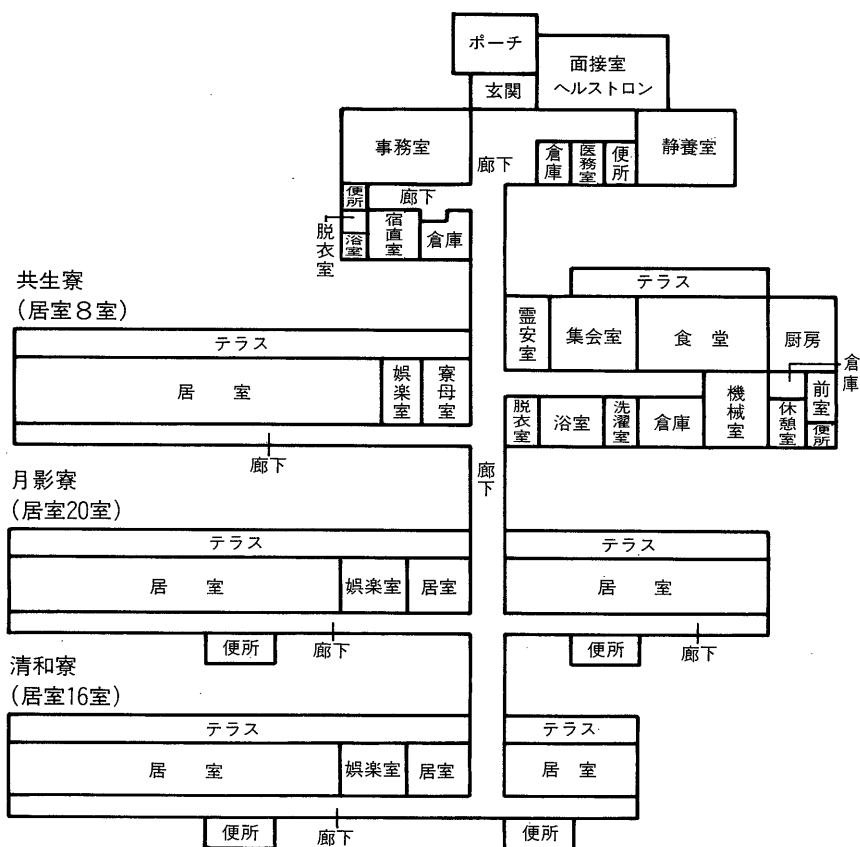
定員五十名に比して非常に寛濶であり、且つ全舎内外は清潔美麗が保たれていて、とても建築後約十年も経っているとは思われず、せいぜい二、三年の経過かと思われる程である。

また各棟凡て耐火構造、平家建であることも老人のための施設として適切であることは言うまでもない。

設備費が一億六千九百万円うち八千二百万円が国庫補助ではあっても、自己負担も尨大なものと言ふべきである。

尚、目下、特別養護老人ホームを併設するため、建築設計は出来上り、ブルトーザーが入っていて敷地の造成中であつた。

明照園養護老人ホーム見取図



。運営について

まづ組織を伺うと、役員は理事長以下理事が七名うち檀家が六名である。監事二名中一名は歯科医であり嘱託医でもある。

職員は十八名であり、施設長、事務長、指導員、寮母五、看護婦一、栄養士一、調理士四、他に指導員助手一、寮母助手一、介護助員一、調理助手一などがあり、嘱託医には外科の専門医もおられる。

経理状況を伺うと、六〇年度の収支決算の概要としては、

措置費収入	八二、一四三、三五四、円
うち事務費収入	五七、九一一、九一九、
事業費収入	二四、二三一、四三五、
補助金収入	三〇、〇〇〇、
うち県補助金	三〇、〇〇〇、
利用者負担金	一一六、〇〇〇、
寄附金収入	五二三、八八五、

各所修繕費及び

修繕引当金繰入

雑費

事業費支出

うち給食費

保健衛生費

被服費

教養娯楽費

日用品費

本人支給費

光熱水費

旅費

一般物品費

固定資産物品費

印刷製本費

光熱費

燃料費

会議費

一七五、〇〇〇、

一三四、一七六、

二一、二一一、五三九、

一二、三三三、四七〇、

二三九、八三五、

一、〇四六、九〇〇、

一、〇七七、八五六、

三二八、四四五、

五一六、〇〇〇、

二、三二三、一五八、

六二八、八四〇、

三九六、〇六五、

一、五九九、八二〇、

三二〇、九〇〇、

二五七、〇〇九、

二一六、六一三、

五五、三三四、

修繕費	五三、〇二〇、
役務費	六三五、九二五、
借料損料	一八八、八九〇、
雑収入	二六、七五四、
運用収入	七〇九、九九九、
合 計	八三、五四九、九九二、
事務費支出	六三、〇四五、八五三、
うち職員俸給	三三、四七六、四〇〇、
職員諸手当	一七、三二一、〇一八、
賃 金	三、〇三五、五〇〇、
法定福利費	四、七三七、二〇三、
厚生経費	一二四、一四〇、
燃料費	一、九四九、五三〇、
器具什器費	八一三、一四〇、
修繕費	六四、〇〇〇、
訓練指導費	三七〇、八〇五、
雑 費	一五八、四〇〇、
合 計	八四、五五七、三九二、円

となっていて、運営の規模が窺れるのであり、この年度においては、収容者達は皆健康を保っておられ、医療費、葬祭費等が不要であったことは慶ばしいことではないか。

次に肝心の処遇について述べると、まづ、入所者処遇方針が定められていて、

目標 家庭的な明るい楽しい環境

方針 自立生活を可能にするための援助

日常生活を出来るだけ活発化させて、個々の能力の低下や減退を防止し、自立のための処遇をなす。

- 1、集団生活の中で個人差を生かせる場にする。
- 2、押しつけの援助をしない。
- 3、利用者が自分の意志で発言し、行動するように援助する。
- 4、利用者が必要と思っていることの把握とサービスを

する。

- 5、最小限の規律の中で最大限の自由を尊重する。
- 6、平等で公平な処遇をする。

と、処遇の根本方針が掲げられていて間然するところがない。

どのような人々が入所しているのか、委託実施機

関（福祉事務所）別に見ると、（昭60・6・1現在）

地元の牛深市が断然多く、男15女17計32名

次いで天草事務所が 女10 男14

水俣市 2 0 0 2

熊本市 0 1 1 1

珠磨郡 0 1 1 1

年令別では

六十才未満 男0女1計1名

六十才～六十四才 1 1 2 2

六五～六九才 3 7 10 10

七〇～七四才 3 2 5 5

七五～七九才 4 6 10 10

八〇～八四才 6 9 15 15

八五～八九才 3 1 4 4

九〇才以上 1 2 3 3
合 計 男21女29計50名

私が訪問した昭・62・3・10現在では男18名女32名となっていて僅な期間にも女性の長命が示されていたのである。

このような高令者達が年々さらに高令化してゆくのである、しかも、行動範囲を見ても、寝たきり3名、居室内2名、建物内11名、敷地内1名、敷地外33名、という状態で、次第に行動範囲が極限されてゆくことが予想されると、どうしても特別養護老人ホームの併設が必要なのである。

それはまた、入所期間を見ても考えられることであり、一年以下9名、一～二年7名、二～三年8名、三～四年3名、四～五年2名、五～六年6名、七～八年3名、八～九年2名、九～十年5名、十～十一年5名、二十年1名、十九年1名、十七年1名、となっていて、今後ますます入所期間の永くなる人々が増えてゆくのが必然である。

また、介護状況を見ても、

食事についてすべて自分で出来る者 34名

何らかの介助を要する者 16名

入浴について自分で出来る者

40名

介助を要する者

10名

排泄について自分で出来る者

39名

介助を要する者

11名

となっているのである。職員のご苦労が察せられる。大部分は健常者であるが、病気と言えはやはり高血圧が最も多く二十人余りで、老人性痴呆の人も五人、全盲の人も三人居るということである。

他の老人ホームには多い転んで骨折するという例は、ここでは殆んどないということであり、平素小魚などを常食しているのでカルシウムが充分摂取されているからであろう。

。入所時にはまづオリエンテーションが行われる。居室の説明、棟内の説明、職員の紹介、日常生活については、

食事、入浴、面会、門限、電話、など。他に外出、外泊についても、集団生活と本人の安全のために、極めて当然な「きまり」や「すすめ」の事項が詳しく懇切に説明さ

れる日課は概ね次のようになっていて、

午前六時起床、洗面、清掃

〃 八時朝食

〃 九時健康体操、グループ活動

〃 十二時昼食

午後一時三十分入浴、レクリエーション、ヘルストロン

療法等、

〃 五時 夕食、自由時間、（健康な人は自由に洗濯機

を使って洗濯もする）

〃 九時 消灯

至極のんびりしたムードの中で、グループ活動として園芸や手芸、絵画、書道等々を楽んでいる。

特に園芸では菊作りが見事であり、手芸では特殊な材料による美しい色彩の貼り絵がすばらしいものが多いのである。

また、お盆に作って祀って後に海に流される精霊舟は、実に大きさと言い、飾りつけと言い精巧なもので驚歎させられるものである。

教養の面では、集会室と言う畳敷の広い室には仏壇も祀っており、随時、合掌礼拝がなされているが、毎月一回三宅師等の法話も行われ、強制しなくとも全員が出席拝聴するというものである。

各寮の懇話室にはテレビも図書も備付けてあり、いろいろの楽器も置かれていて、それぞれに楽しんでゐる由。廊下や居室にも手芸品や生花が飾られていて、明るい雰囲気に満ちている。

保健面では、定期的な健康診断のほかに、医務室に於て歯の治療やその他の診察治療が随時行われており、老人ホームとして万全の配慮がなされている。毎日のヘルストロン療法も大切なことであろう。

年中行事 次の年度事業実施表を見てもわかるように、実に多彩な行事が次々と実施されていて、羨ましく思う程である。

特に、汐干狩や精霊船作りと船流しなどは、さすがにこの土地柄でなければと思わされる。

昭和61年度 事業実施計画表

9	8	7	6	5	4	月
二百十日 敬老の日 秋分の日	盆会 終戦記念日 立秋	半夏 七夕 土用うしの日	時の記念日 入梅・父の日 夏至	憲法記念日 子供の日 母の日	花まつり 天皇誕生日	社会行事
地域の 人々との 友和を	感謝の 気持ちで	思いやり のある 心を	衛生に 注意する	美しい 環境作り	利用者と 職員との 和を大切に	生活目標
<ul style="list-style-type: none"> ● 秋期大清掃日 ● 敬老行事 ● 法話会 ● 県民体育祭 ● 彼岸法要 	<ul style="list-style-type: none"> ● ぶどう狩り ● 協会主催ゲートボール大会 ● 精霊船作りと船流し ● 盆踊り大会 ● 納涼大会 ● 夏季衣料品交付 	<ul style="list-style-type: none"> ● 外食会 ● 七夕祭り ● 避難訓練 ● 西瓜割大会 ● 牛深市農協後援会GB大会 ● 家族会 	<ul style="list-style-type: none"> ● 芋作り ● 菊の鉢上げ ● 健康診断 ● 衣替え ● 日本脳炎予防注射 ● 市長杯ゲートボール大会 	<ul style="list-style-type: none"> ● 菊のさし芽 ● 花壇造り ● つわ採り ● 天草郡市ゲートボール大会 ● 外食会 ● 日帰り旅行 	<ul style="list-style-type: none"> ● 春期大清掃日 ● 花見 ● 汐干狩り ● 老人一泊旅行 ● ゲートボール通常総会 ● 協会主催ゲートボール大会 	施設行事計画
<ul style="list-style-type: none"> ● 九州法人福祉会議(8月) ● 保健所一斉調査指導 	<ul style="list-style-type: none"> ● 冷房開始 ● 職場研修 ● 寮母担当替え 	<ul style="list-style-type: none"> ● 冷房器具整備点検 	<ul style="list-style-type: none"> ● 火災報知器点検 ● し尿浄化槽清掃 ● 職員健康診断 ● 寮母担当替え 	<ul style="list-style-type: none"> ● 天草郡市連絡協議会 ● 消防署査察 ● 看護婦、寮母研修会 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新年度諸計画作成 ● 施設長会議 ● 地下シク貯蔵所定期点検 ● 寮母担当替え 	備考

週 間 行 事		3	2	1	12	11	10
日 土 金 木 水 火 月 衛 生 日	入 浴 ゲートボール・輪投 生花教室・ゲーム遊び 手工芸教室・リハビリ体操 園芸教室・バトン体操 入 浴 リハビリ音楽・数え歌体操 カラオケ教室・室内ゲートボール	放送記念日 ひな祭り 春分の日	節分・立春 建国記念の日 バレンタインデー	元旦・七草 大人の日 寒	冬至 針供養 クリスマス	文化の日 勤労感謝の日 火災予防週間	体育の日 読書週間
		残存機能を結集 して生甲斐を	積極的な行動を	整理整頓をよく しよう	人と協力する態 度で	自分に適した運 動を	反省する態度を
		● ひな祭り ● 法話会 ● 花壇造り	● 節分 ● 建国の日 ● 避難訓練	● 外食会 ● 新年会 ● 七草	● 暮の大清掃日 ● 自衛隊交歓会 ● 忘年会(福引)	● 作品展 ● みかん狩り ● インフルエンザ予防注射	● 外食会 ● 衣替え会 ● 運動会
月 間 行 事							
16日 外庭大掃除	5日 レクリエーション大会 8日 法話会又は各棟懇談会 10日 高令者学級 15日 室内大掃除 28日 自治会	17日 ガラスみがき 24日 血圧測定 25日 誕生会 28日 職員会議 30日 給食検討会	● 胸部撮影(保健所)	● どんど焼 ● 新春親善ゲートボール大会 ● 書初め	● 忘年親善ゲートボール大会 ● 冬期衣料品交付 ● 餅つき ● 健康診断	● 牛深市長杯GB大会 ● ロータリークラブ杯GB大会 ● 天草郡市GB大会	● 芋掘り ● 秋祭り ● 老人スポーツGB大会
		● 職員健康診断 ● 諸帳簿の整理と反省	● 職場研修 ● 寮母担当替え	● 年始諸計画 ● 職場研修	● 年末諸計画 ● 寮母担当替え	● 天草郡市連絡協議会	● 職場研修旅行 ● 寮母担当替え

食事

考人にとって毎日の食事はど関心の深いものはないだろう。毎月の献立表には、日々の食事に栄養と食品の多種類使用による変化が工夫されていて、嬉しいことである。これも土地柄、海の幸、畑の幸が、充分に活かされ、尚その上に、牛鶏豚等の肉類も配分されている。

特に朝の味噌汁は老人にとって欠かせないもの思うのは私独りではあるまい。

ボランティアについて

特筆すべきものは、毎月一回訪問してくれて、美容の奉仕をしてくれる美容師さんがあり、十八年間、続けていることである。

また、熊本の自衛隊員が毎年十二月、一泊二日で慰問に来てくれて、餅つきをしてくれる。またこの時は近くの婦人会員や小・中学生も材料を持ち寄り一緒に迎春の楽しい行事に参加してくれるという。

春には、こちらからこの園の老人達が、一泊二日で自衛

隊へ入隊して、交情を温める、というのであるから誠に微笑ましい限りではないか。

三宅春光僧正が、この老人ホームの他に、昭和三十八年から久玉保育園を、また県の懇望により昭和四十三年から救護施設天草園をも経営されていることを附記しなければならない。これらには寺族の協力が盡大であることは言うまでもない。

春光師の故夫人光子様、亮一氏の夫人ナツミ様、令息晃洋様等寺族の絶大な協力を特筆しなければならない。加うるに檀信徒の理解協力も忘れてはならない大きな力である。其後、昭和六十二年十二月一日に至って、完成し開設され特別養護老人ホームとしての事業を開始した。特別養護老人ホームはこれまで収容人員五十人以上であったが、養護老人ホームで入所後寝たきりになる特養入所の対象者が次第に増えてゆくので、養護施設に併設する三十〜四十人の小規模特養施設設置を望む要望が高く、国でも六十一年度から併設をスタートさせることとした。熊本県内では本園が

昭和62年2月分前半給食献立表

8	7	6	5	4	3	2	1	
味噌汁 生卵 味付のり	味噌汁 鯖のみりん醤油干し 大根おろし	味噌汁 桜干し キャベツのレモンづけ	味噌汁 しいたけのり たか菜の油炒め	味噌汁 いり卵	味噌汁 しそ入り昆布 いわしのかまぼこ	味噌汁 鮭の切身 大根おろし	味噌汁 納豆 味付のり	朝
牛乳・パン ラーメン・果物 白菜のつけ物	八宝菜 酢の物 おかし	オムレツ ポテトサラダ 南瓜洋羹	親子丼 レバーのころ煮 ふかし芋	肉じゃが ほうれん草のお浸し ヨーグルト	やきめし コンソメスープ ドレッシングサラダ	かき揚げ 酢の物 吸物	牛乳・パン だんご汁・芋餅	昼
刺身 ベーコンと野菜の 煮込み	いわしのチーズ巻き フライ けんちん汁	豚肉と野菜の 煮込み ナマス	魚の塩焼き 白菜の浸し煮 つけ物	一口用トンカツ 味噌汁	煮魚 白和え つけ物	野菜の煮物 春菊のごま和え	刺身 マーボ豆腐 白菜のつけ物	夕
16	15	14	13	12	11	10	9	
味噌汁 白菜のつけ物 いわしのかまぼこ	味噌汁 いり卵	味噌汁 生卵 味付のり	味噌汁 たか菜	味噌汁 しいたけのり・キャベツのレモンづけ	味噌汁 かまぼこ 福神づけ	呉汁 博多づけ 金山寺納豆	味噌汁 花がつの梅干し もろみ	朝
いり鶏 かぶの三倍酢 果物	雑煮 ヨーグルト和え	牛乳・パン 果物	干し大根の煮物 ほうれん草のごま和え	ブリの照り焼き 山芋・吸物 おかし	おにぎり 盛り合わせ おしるこ	中華風炒め物 カリフラワーと人参 の甘酢づけ 貝の味噌汁	コロッケ ごま和え 牛乳羹	昼
かきのフライ	野菜のみそ煮	刺身 鶏のから揚げ 玉葱とナスの みそ炒め	鶏のから揚げ つけ物	おでん つけ物	天ぷら 胡瓜とワカメの 酢の物	煮魚 シーチキンサラダ セロリの金平	すきやき風煮 白菜の朝鮮づけ	夕

最初に適用された。

この特別養護老人ホームは従前からの養護老人施設「明照園」と棟続きで鉄筋コンクリート平屋一〇六六㎡、敷地面積は一八二四㎡、四ベツト十室の居室のほか機能回復訓練室、医務室、浴室などを備え、本格的なソーラーシステムを導入している。総事業費二億四千七百五十七万（国二分の一、県四分の一補助）の大事業である。

在宅老人へのデイサービスも行う。これは午前八時半から午後五時まで利用でき、入浴食事、生活指導、機能回復訓練などで、利用料は食費三百円以外は無料。

一週間程度宿泊するショートステイは、家族旅行や介護疲れなど私的理由で宿泊する場合が一日五千百三十円（生活保護者は千八百三十円）、病氣や出産、冠婚葬祭、災害など社会的理由の場合が千八百三十円（生活保護者は無料）である。

特養としての新しい業務も次第に増えてゆくので、職員組織も拡充され、施設長として三宅亮一氏、事務員等三名、生活指導員一名、看護婦、看護師、栄養士、各一名、調理

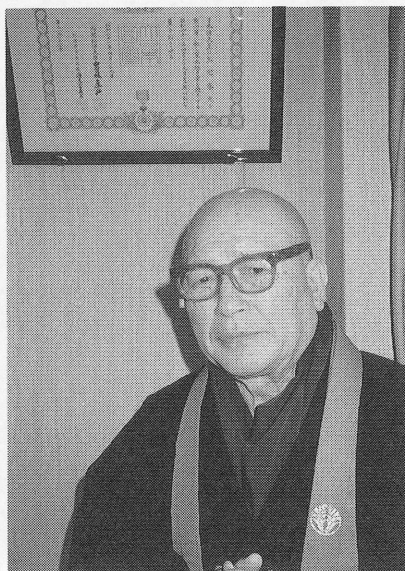
員五名等が養護施設と兼任であるが、寮母は養護専任が五名、特養専任が九名、介助員一名（特養専任）、医師一名（兼任）となった。

最後に、この訪問記が、いろいろの都合で頗る延引し、本号に掲載させて頂くことになったことを皆様にお詫び申上げる次第である。

（文責 乾）



事務長 三宅亮一氏



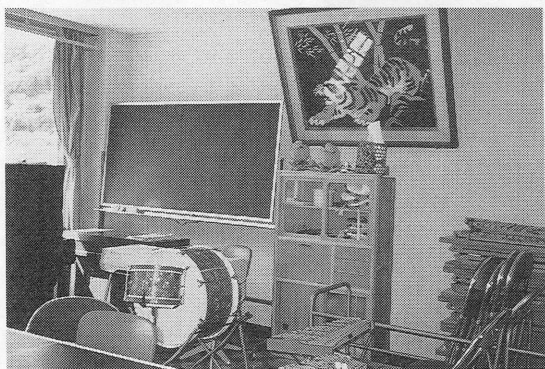
園長(理事長)三宅春光師



◀指導員の戸村さん

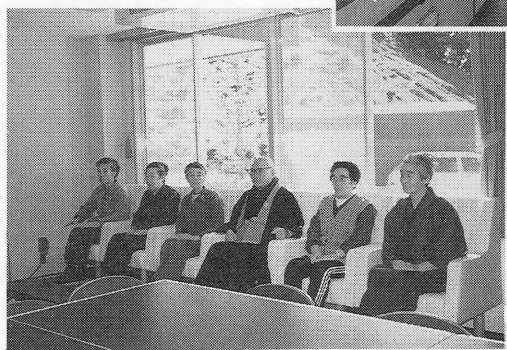
▼明照園の扁額





◀ 懇話室に
いろいろの楽器もあり

廊下も広くて美しい▶



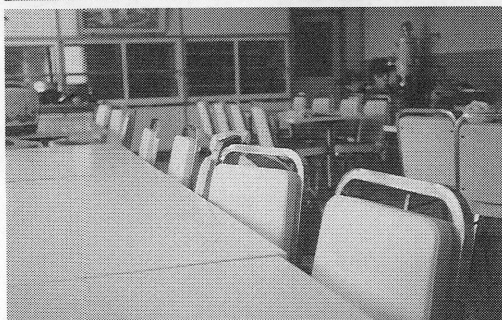
◀ 面接室でヘルストロン
楽しく語りながら

居室も明るく▶





集会室で手芸も



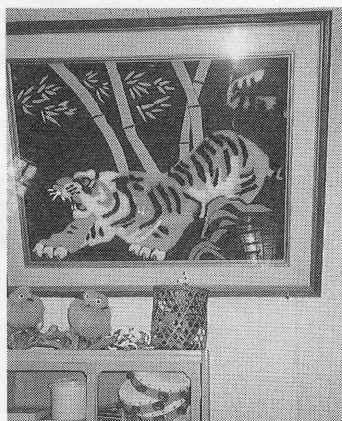
食 堂



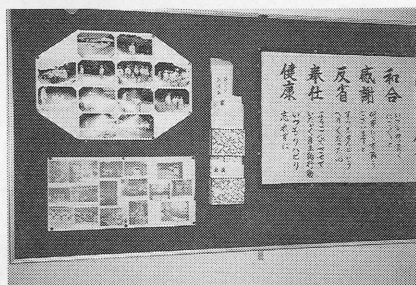
洗濯機



浴 室



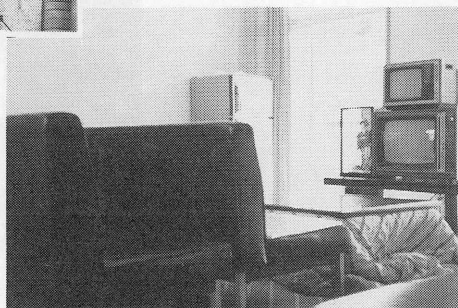
廊下の装飾

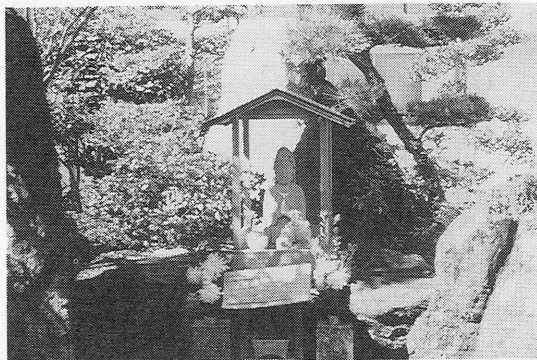


掲 示 板



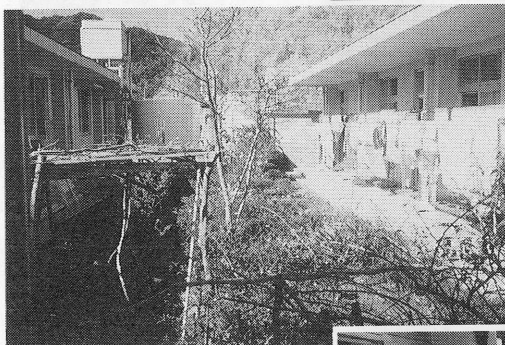
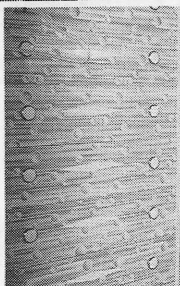
◀▼懇話室の一部





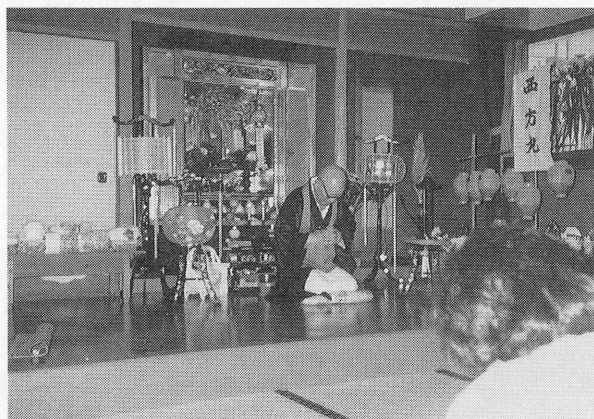
◀中庭に祀られてござる
観音様

居室の一部▶



◀◀中庭の一部
(日当りのよい)





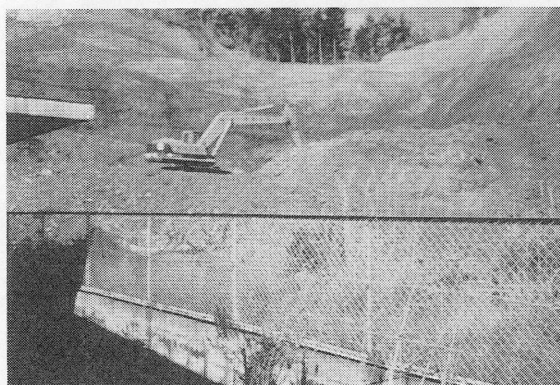
お盆の法話



精霊船をお祀りして



精霊船の運搬(海へ)



特別養護老人ホーム造成地

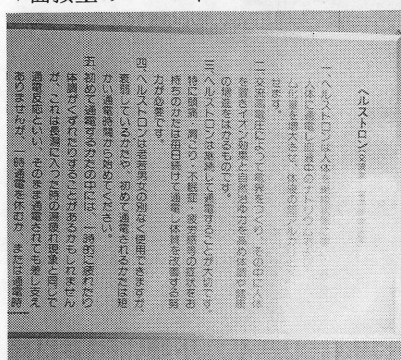


▲中庭の一部



▲居室の一部

▼面接室のヘルストロン



謹謝

前号（佛教佛社第十三号）に掲載しました、増上寺法主中村康隆先生の論文「佛教の心―浄土への道」について、左の通り正誤表を掲げ、先生並びに読者諸賢に対し編集者から陳謝申し上げます。

「佛教の心―浄土への道」正誤表

頁行		誤		正	
1	上16	港町だからというのですが	港町だからというのですが	11	下9
2	下10	法を灯火とし	法を灯明とし	11	下12
3	下4	三十五万億とか、四兆もあるという	三十五万億とか三百五十万億とか、中には四兆も或は三十兆もあるという	11	下15
4	上12	とこういって詩っております	とこう詩っております	13	上17
6	下10	五劫思惟の願いすべてのもの	五劫思惟の願い、すべてのものを	13	上18
7	上5	草木国土悉皆浄土	草木国土悉皆成仏	14	上7
7	上10	生命論ともいいますが、宗教観という風に	生命論ともいいますが、宗教論という風に	7	上11
9	下3	二千二百五十一億・八千何百万・	二千二百五十一兆八千何百億	10	下18
10	下18	先載一遇	千載一遇	11	下9
11	下9	限らない時の流れともなる命	限らない時の流れともなる命	13	上17
11	下12	すべてを發展せしめようとする、	すべてを發展せしめようとする。	13	上18
11	下15	すべてをいかそうとする無量光	すべてをいかそうとする。また、無量光	14	上7
13	上17	回向発願心	回向発願心（エコウホツガンジン）	14	上7
13	上18	至誠心	至誠心（シジョウシン）	14	上7
14	上7	三毒の貧瞋痴の三熱惱	三毒の、貧瞋痴の三煩惱		

14 下 5 愚が中の極愚狂が中の極狂 愚が中の極愚、狂が中の

極狂

16 上 2 女の人が男の人になるとい 女の人も男の人と同格に

うのが なるというのが

16 上 7 地獄一定住処 地獄一定住処（ジゴクイ

チジョウスミカ）

16 上 13 地獄一定住処である、われ 地獄一定住処であるわれ

らの救いを らの救いを

17 上 11 信者達に対して、悪人とい 信者達に対していわれた

うことを間違えてはいけな ことで、宗教的な悪人と

い悪人でも いうことを間違えてはい

けない。悪人でも

18 下 18 この「み仏の、それこそは この「み仏の杖、それこ

そは

19 上 2 み仏のお救いを育て み仏のお救、お育て